

平成28年9月24日朝8時10分本日は見学会の日。東京千住キャンパスからのスタートは二回目。電機学校同窓会の見学会は、成田にある航空科学博物館。天候はどうも、昨年よりダメかな？曇りである。校友会事務局からも参加で、合計参加者は、32名の予定だが、一人まだ。電話すると、今起きた。これでは、これから来たら、昼になるので、キャンセル扱いとし、31名で出発。開かずの踏み切りも通過。首都高千住ランプへ、いつもと違って土曜日のせいが大変スムーズだ。

ほとんど高速使用なので、予定より早めに着きそう。トイレ休憩も取り、航空科学博物館に到着。まずは記念写真。ここは有料施設。見学時間は90分とたっぷり。屋外にはジャンボジェットの頭の部分展示してある。昔千葉支部で見学した整備場のジャンボだけに、デカイ。1階の展示は、ジャンボの模型、動いている。シミュレーターを使うと、操縦できるようだ。ジャンボの胴体が判るように、荷物室、エコノミー席ビジネス席など輪切りで展示。客室の中は、座ったことがない、ファーストクラスの座席やビジネス席、エコノミー席などよくわかるように並べてあり、座ってそれが確認できる。やはり、ファーストクラスは、すべてが違うな？一度は乗ってみたいものだが、生涯公務員だったものにとっては夢のまた夢。またタイヤのデカイこと。コックピット内にはフライトシミュレーターもあり、上昇や着陸の操縦かんも自分で操作できる。2階の展示は成田歴史や、空港の秘密などを目と耳で感じる事が出来る。日によっては、今の成田空港の管制官との交信も案内されるとの事。臨場感もあるな。さらに、成田空港の1/800の現況も展示してある。これを見ると、未完成な空港ということがよくわかる。

そして、3階の屋上部分。第一滑走路から今まさに飛び立とうとする航空会社のジェット機がずらり並んで数珠繋ぎ。数分間隔で飛び立っていきさまがすごい。職員さんの説明はここまで。約50分。でも、残念ながら第二滑走路は新管制塔と格納庫の関係で見えない。その後は自由見学。それではと、5階の展望展示へ。ここには、人力飛行機の現物が展示してある。通常は琵琶湖で使用するのだが、使うと必ず壊れて、バラバラ、それがたまたま、大会が中止となり、飛ばなかったの、きれいな形で展示してある。乗り入れている各航空会社の会社名がずらり。それと、飛び立つジェット機の機種や便名のアナウンス。これは、空港見学より、判りやすい。4階にはレストランもある。屋外には、役目を終えたセスナやYS11もある。構造が凄いのである。骨材モノコックピット構造ジュラルミン製だそう、だからできるだけ薄くしても安全に飛べるのだそう。私は燃料タンクというのは、荷物室や客席下にあると考えていたが、翼にタンクが存在するとの事。驚きである。操縦席にも座ったが狭い。これでは、機長たちがエコノミー症候群になるのでは？エンジンも大変。4機のエンジンだけで80億、車と違い、爆発点火の4サイクルとは違って、空気を圧縮して爆発させて、飛んでいるのである。離着陸の時はUHFで十分だそうだが、太平洋上などではUHFやSHFでは電波が届かない。それで、私らがハムで交信しているHF帯(3Mや18M帯)を使っているそう。空港そばでは、それ以外に離着陸を完全にするため、ASRSSRレーダー、PAPI指示灯、ILS計器離着陸装置、LOC、GS、ILS距離想定装置などで離着陸も完全にできるが、上空1万メートル等では、ARSRやORSRなど、全国に張り巡らしてあり、全ての航空機が今何処にいるかも瞬時に把握できているそう。さらに、衛星システムも存在しており、MTSATやGPSを使って、車より早く自動操縦も可能だそう。今成田は第一と第二滑走路で運用しているが、増便をよりしやすくするために、第三滑走路を予定しているそう。4000メートルのA滑走路と3500メートル2本入れて3つの滑走路で世界へ羽ばたくそう。まだまだ発展するのだね。

昼食会場は、成田の新勝寺そばの海老屋。待ちに待った懇親会。伊藤治雄氏(S33年卒)による乾杯の音頭で始まった。食事後は、三々五々新勝寺の境内参拝や、お土産コーナーへ。そして、次の見学先である「伊能忠敬記念館」へ向かった。50歳を過ぎてから、測量の勉強を始め、約二十年かけて、日本地図を完成させた。現在の地図と少し位置関係がずれてはいるが、精度自体のすばらしさは、現在の技術と変わりはない。恐るべき人材だ。そして、最後が東薫酒造。飲兵衛たちの歓喜の声の中での見学だ。試飲もたっぷりして、最高級の大吟醸は素晴らしい。大変うまいが高額。私には無理。1本2万円近くするとの事で、あきらめて、試飲で楽しむ。でも、やはりうまい。これが一番かな？

今回の見学会、天候はあまりよくなかったが、事故もなく予定時間に学園に戻ることができた。見学会を通して、日本の技術の進展の素晴らしさを垣間見た。今や日進月歩を過ぎて、秒針分歩の時代になったのである。我が学園も次の100年に向け、走り出している。ここにも、母校の原点である「技術は人なり」「実学主義」が存在。さて、同窓会のみならず、次回はどんな見学会になるのか？まだ参加していない皆様、次回は参加して旧交を暖めたり、母校を懐かしんでみては如何でしょうか？さて、もう来年の事へと準備を始めなくてはと、思いつつ、解散となった。

